

小学校五年

チャレンジ 話すこと・聞くこと

この音声問題は、第五学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、話すこと・聞くことにチャレンジしましょう。

今から一回だけ、音声による問題を放送します。よく聞いて、あとの問題に答えてください。問題用紙は開かないでください。聞いていて大切だと思うことは、表紙のあいているところにメモをしてもかまいません。

高田さんの学校の五年生は、総合的な学習の時間に、熊本県のよさについて調べています。高田さんが調べていく中で、熊本県の地下水はとても豊かであることが分かりました。そこで、熊本県の地下水のことを調べるために、熊本県水環境課の西川さんにインタビューをすることにしました。あなたもインタビューに参加しているつもりで聞きましょう。

高田　こんにちは。ぼくは火の国小学校の高田といいます。ぼくは、今、「熊本のたからもの」というテーマで熊本県のよさについて調べています。今日は、熊本県の地下水のことについてお尋ねしたいことがありますので、今からインタビューをさせていただきます。よろしくお願いします。

西川　はい。わたしは西川といいます。こちらこそ、よろしくお願いします。

高田　熊本県は地下水が豊かだということを新聞で読んだのですが、熊本県全体では、どれぐらい地下水を使っているのですか。

西川　はい。熊本県全体では、水道水の約八十パーセントに地下水が使用されています。全国平均は、約二十パーセントですから、いかに熊本県の地下水が豊かなかが分かりますね。

高田　そうなんですか。ぼくたちが普段、何気なく飲んでいる水の多くが地下水というのは、とても恵まれたことなんですね。ところで、熊本県にはきれいな水がわき出る水源も多いと聞きましたが、いくつかあるのですか。

西川　はい。水がわき出る水源は、県内に千か所以上あります。また、環境省が全国から美しい水源を選んだ「名水百選」には、熊本県内から「昭和の名水百選」として四か所、「平成の名水百選」として四か所の合計八か所が選ばれ、その数は全国で最も多いんです。

高田　すごいですね。そんなに豊かな熊本の水ですが、水不足になることはありませんか。

西川　そうですね。熊本県内には、地下水の量が年々減ってきているところもあります。その原因の一つとして、これまで地下水を蓄える役割を果たしてきた水田の面積が減ってきていることが考えられます。そこで、地域によつては、地下水を蓄えるために水田に水を張ったり、森に木を植えたりしているところもあります。地下水をみんなの力で守ろうとしているのです。私たちも限りある水資源を守るための努力が必要だと思います。

高田　はい。ぼくも水道の水をむだ遣いしないように心がけたいと思います。西川さんのお話を聞いて、「熊本のたからもの」である地下水のことをみんなにも伝えたいと思いました。今日はありがとうございました。

放送はこれで終わりです。
それでは、問題用紙を開いて始めてください。